

科目名	社会倫理学特論	担当教員	細田満和子
科目属性	関連科目	単位数	2 単位 (面接 0.25 単位)
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b></p> <p>多様化する現代社会では、様々な価値や規範がせめぎ合っている状況です。このことは、私たちの&lt;生&gt;の様々な現場に混乱をもたらすものになるかもしれません。しかし逆に、新しい可能性を生むものでもあります。</p> <p>私たちは、社会の一員として生きています。それでは私たちの生きている社会とは、いったいどんなものなのでしょうか。社会を理解しようとする時、社会学は使える道具のひとつだと思います。というのも、社会学では、理念や観念の世界ではなく、現実には起きている社会的な事象を対象に、独自のツールを使って読み解いてゆく作業をするからです。</p> <p>同じ事象であっても、A さんにとっての見え方と、B さんにとっての見え方は異なってきます。A さんのような人が多かったら、それが世の中における常識になってきます。それでは B さんの見方は捨て去られるものなののでしょうか。いいえ、そうではなくて、B さんの見方もやはり、社会を築き上げている大事な見方のひとつです。もしかしたら、いつか、多くの人が B さんと同じ見方になるかも知れません。</p> <p>このように、様々な見え方でものを見る目、考える力を養ってゆくことが、社会学を学ぶ目的のひとつになります。これらは、「常識を疑う」こと、そして「社会は社会によって作られていること」を理解すること、と言えるでしょう。そしてさらに、そうした社会がどのようなものになりうるのか、というところまで射程に入れて考えて行きたいと思います。</p> <p>本授業では学修者に、現代社会を理解する為の枠組みとして、公共性をめぐる議論、市民社会論、生命倫理学といったものを、社会倫理として理解して頂きたいと思います。そして、主に医療福祉の現場で生起している諸問題をケースとして読み解いてゆき、多様な社会の創造についての学びを提供したいと思います。</p> <p>この授業の具体的な到達目標は、以下の 4 つとなっています。</p> <p><b>【授業の到達目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 価値や規範の多様性とはどういうものか理解ができる。</li> <li>2. 多様性、市民社会、公共性、社会関係資本、個人主義、自己決定といった基本的概念を把握する。</li> <li>3. 医療福祉の現象の中から、公共性に関わるテーマを見つけることができる。</li> <li>4. 見つけたテーマを読み解き、文章にまとめ上げることができる。</li> </ol>			
<p><b>【授業計画】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会の諸問題を見る方法 (第 1 回～第 5 回) <ol style="list-style-type: none"> <li>①社会学における価値と規範(1)</li> </ol> <p>私たちが、人生の中であり方を変化させるのと同じように、社会もまた、時代によって変化してきます。戦後の日本は、敗戦の痛手をばねにして急速に工業化を進め、1970 年半ばに至るまで高度経済成長と呼ばれる変化を遂げました。その後、脱工業社会と呼ばれる情報やネットワークを重視した情報化社会へと変容してきました。人々の考え方や家族の在り方や地域社会での他者との関わり方も、こうした社会の変化と密接な関係を持ちながら変わってきています。価値や規範も同様です。</p> <p>現代の日本人を特徴づける性格には、個人主義がありますが、個人主義は、個々人の人格や自律性</p> </li> </ol>			

を重んじる一方で、他者に対する配慮を欠いたり、公共的な事柄への参加の機会を失わせたりすることがあります。こうした個人主義への反省から、近年注目を集めているのが、社会関係資本（ソーシャル・キャピタル）の概念です。社会関係資本は、人々間の信頼関係やネットワークが、まるで資本のように個人や地域に恩恵をもたらすもの、と捉えられます。社会関係資本の概念は、この社会における個人主義と公共的態度について分析する時に有効な視覚を与えてくれ、共に生きる社会に向けてのヒントを与えてくれるでしょう。

## ②現代社会が抱える医療福祉の諸問題（2，3）

人が生きるということは、他者との社会的な関係性の中でのみ可能になります。つまり、ある人が生きてゆくためにはさまざまな人の支えが必要であるし、逆にある人はさまざまな人を支えています。

日本は急速な高齢化社会を迎え、その解決法が模索されています。高齢化というのは、病いや障がいを持つ人々が急速に増えて来ることを意味し、医療や福祉の再編は必要不可欠なものと考えられています。誰もが老いを迎えるわけですから、私たちは、この現実を、単に社会的負担が増えるとか、危機的だと捉えるだけでなく、正確に見つめてゆく必要があります。

病気になったり、障害を持ったりするようになると、その人の生きている世界は大きく変わります。それは、身体の変化だけでなく、家族関係、職場関係など、すべてにおいて今までとは異なってくるからです。社会が病者や障害者に対して抱く役割は、病人役割、障害者役割として概念化されています。この考え方によると病気とは、社会的に意味付与された状態のことです。病人役割を付与されることは、今まで当たり前としてあった世界が崩れ、まったく新しい経験となることです。こうしたことは病いや障がいを持つ当事者にとってどのような意味を持つか、考えてみたいと思います。

## ③方法としての公共性論、市民社会論、生命倫理学について（4，5）

人は、1人で生きるのではなくて、社会のさまざまな人たちと相互行為をしながら生きています。さまざまな人たちと行為する時、人は、それぞれの集団で異なる顔を持ちます。例えばある人は、学校という集団においては大学生、アルバイト先のお店という集団では店員、家という集団では子どもという地位にあります。そして、それぞれの地位に応じた役割が与えられます。

市民としての役割という考え方もあります。市民とは何か、市民には何が期待されているのか、市民の役割とは何かを問うことは、社会の成り立ちを考える上で重要なヒントを与えてくれるでしょう。

## 2. 医療福祉の諸問題への実践的アプローチ（第6回～第9回）

### ①社会調査法の基礎、質的研究法（6，7）

ひとくちに社会学といっても、対象の設定、検証の方法、分析の仕方は千差万別で、さまざまな立場があります。その中で、この授業で皆さんに知って頂きたい立場は、知識社会学といわれているものに近いものです。知識社会学では、人々の「日常生活の世界」を理解することが課題になります。理論家たちの〈観念〉ではなくて、「人びとがその日常生活で〈現実〉として〈知っている〉ところのもの」が社会を成り立たせると考え、それを理解しようとするのです。

このことによって、当事者が現実の日常生活の中で〈知っている〉ところのものが明らかになり、当事者の「現実 (reality)」を浮き彫りにすることが可能になるでしょう。

## ②調査のフィールドとの関わり方（8，9）

現場で問題を発見した時に、それをさらに深く知りたいと思うことがあるでしょう。そうした時の方法に、社会調査があります。社会調査は、アンケートと言われている質問紙を利用した量的調査と、インタビューや参与観察による質的調査に大きく分けられます。

どちらも人を対象とした調査ですので、実施に当たっては調査に参加して下さる人を尊重しなくてはなりません。具体的には、調査への参加は自発的なものであることをお知らせし、調査を強要しないこと、基本的に匿名で行うこと、調査で得られた内容はプライバシーに配慮して扱うことなどです。これらは研究倫理と言われ、かつては医学や看護の研究の際に必要とされてきましたが、近年、心理学や教育学や社会学などの人文社会的研究でも必要性が指摘されてきています。

## 3. 諸問題の読み解き方と今後の展望（第10回～第15回）

### ①現場の諸問題を理論で読み解くために（10，11）

例えば、病いや障がいを持つようになる人にとっての発症後の世界は、医療者の見ている「疾患 disease」とは異なる、「病い illness」の経験と概念化されます。対象を見ている立場によって、異なる名づけが行われ、異なる見え方がするという訳です。

現実の諸問題にアプローチをして、それを社会学の概念を使って解釈してゆくことで、問題が見えやすくなることがあります。事前学習に指定したテキストには、そのような事例が沢山ありますので、このことを考えながら読んで下さい。

### ②諸問題を読み解いた成果に対するフィードバック（スクーリング）（12，13，14，15）

スクーリングの時に指示します。

#### 【評価方法】

スクーリング 20%、レポート 40%、試験 40%の割合で総合して行います。また、受講の年度中に星槎大学紀要や、その他の学術論文誌に掲載が決まった場合、それも評価に加味します。

#### 【教科書】

細田満和子. (2006). 脳卒中を生きる意味—病いと障害の社会学, 青海社. ISBN:4-902249-22-7

玉井真理子・大谷いづみ(編). (2011). はじめて出会う生命倫理, 有斐閣. ISBN:978-4-641-12420-2

#### 【参考図書】

齋藤純一. (2000). 公共性, 岩波書店. ISBN4-00-026429-XC0310

R. ベラー他(島蘭・中村訳). (1991). 心の習慣—アメリカ個人主義のゆくえ,

みすず書房. ISBN4-622-03787-4C1036

R. パットナム(柴内訳). (2006). 孤独なポーリング—米国コミュニティの崩壊と再生,

柏書房. ISBN:4-7601-2903-0

Kawachi, I., B. Kennedy. (2002).

TheHealthofNations:WhyInequalityisHarmfultoYourHealth. NewPress. ISBN:156584582X

細田満和子. (2012). パブリックヘルス 市民が変える医療社会, 明石書店. ISBN:978-4-7503-3523-0